とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1025414
園名	駿河台大学第一幼稚園

１．活動のテーマ

<テーマ>

自然とのかかわり（砂・水）

<テーマの設定理由>

友達同士で遊ぶ中で、砂場で遊ぶことを好む子供が多く、山や団子を作ったりごっこ遊びをしたり、水を流したりすることを楽しんでいる。砂場の環境を見直すことで、面白そう、やってみたいという気持ちをもったり、友達と考えを出し合ったりしながら遊びを進めていくようになってほしい。

３歳児：・砂の量が増えた砂場で伸び伸びと遊ぶ。（９月～２月）
・水や砂に触れて感触を楽しみながら遊ぶ。（９月）
・型抜きや山作りをする。（９月～１２月）
・水を使って川や池を作ることにより、水が砂に吸収される様子を観察する。（１月～２月）
・水がすぐ吸収されずに遠くまで流す方法を玩具を使用しながら考えたり知ったりする。（２月）
・気付いたことや発見したことを言葉で教師や友達に伝える。（９月～２月）

５歳児：・砂の量が増えた砂場で伸び伸びと遊ぶ。（９月～２月）
・砂と水の感触を楽しみながら遊ぶことを楽しむ。（９月）
・これまでの経験から自分ができることを活かしながら山や川などを作って遊ぶことを楽しむ。（９月～１０月）
・様々な方法で水を流し、水がどうやったらすぐに砂にしみこまずに長い距離を流れるかを試したり、発見したりすることを楽しむ。（１０月～２月）
・友達と作りたいものを話し、必要な道具を使いながら山や池、お城や町など作りたいもののイメージや考えを実現していく。（１０月～２月）

２．活動スケジュール

３．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

砂場用シャベル大小、水流し、バケツ、型抜き、土台砂型（大小)、コテ（大小）
環境設定：子供たちが自分たちで必要な道具を選択できるように用意しておく。
必要な分の水を考えて使用できるように大きな洗面器に水を入れて用意する。

・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり

（３歳児）

砂場遊びが好きな子供が多く、型抜きをして楽しんだ。最初は砂を入れてひっくり返すことを楽しんでいたが、きれいな形にはならなかった。毎日繰り返し遊んだり、他学年の遊んでいる様子を見る中で、砂を入れたら上からぎゅっと抑えること、さらさらの砂ではなく、水を含んだ砂の方が固まりやすいことに気が付いた。それを実践することですぐに崩れずに形を作ることができるようになり、何度も楽しんでいた。

年中・年長組が大きな土台砂型を使って遊んでいる様子を見て興味をもち「やってみたい」と言う子供が多くなった。今まで遊んでいた小さい型とは違い、大きい方は何度も崩れてしまい、繰り返し挑戦したが、なかなかうまくできず、子供たちは「あーあ」「壊れちゃうね」と残念そうにしていた。同じ場にいた異学年の子供が「水を入れるといいよ」「もっとぎゅって押した方がいいよ」と自分たちの経験を基に教えてくれたが、年少組の力ではなかなか固まらなかった。教師が一緒に遊びに入り、水を入れたり砂を足で踏んでみようと提案したりして、最後は、子供たちが上に乗って足で踏み固めたことで成功した。子供たちは「大きなケーキができた」と喜び、その上に飾りをつけて楽しんだ。

砂に道を作って水を流すと、水が砂に吸収されなくなってしまい「先生、水がなくなっちゃう」と言ってきた。他学年が水路で遊んでいる様子を見たことがあるので、同じように水流しを使ってやってみることにした。しかし、なかなか設置がうまくいかないためにすぐに水流しがずれて水がうまく流れなかった。すると水路の下にバケツを置き、教師と一緒に考えながらつなげていくと、砂山で高低差のある水が流れる環境を作ることができた。

この経験後、しばらくして教師が今度は「長い水の滑り台を作りたいんだけど、どうかな。」と提案してみた。するとすぐに「いいね。」「作りたい。」と興味を示した。「どうしたら長くできるかな。」と問いかけると、一人の子供が「高いお山を作ってそこから流せば良いんだよ。」と考えを話したので、山を作り、その山の上から水流しを置く土台となる砂の道を作ることにした。水流しを長くつなげた後に水を流してみると途中で水が漏れて最後まで流れなかった。「何でだろう？」と問いかけると「ここに砂を入れたら良いんじゃない？」と水路の下に空間ができていることを発見して砂を詰めたり「高くなってるからだよ。」と水流しが高くなっているところを見つけて坂になるように直したりする姿が見られた。数日繰り返し、今までで一番長く水を流すことができた時には、年少組全員で喜んだ。

（５歳児）

好きな遊びをする時間に、砂場で山を作った所に水路セットを置いて水を流して遊んでいた。繋げた道の途中で水が全部流れ落ちてしまい、色々な道具を使って高さを変えたり水路の重ね方を変えてみたり、ゴールまで水が流れるように工夫して遊んだ。

学級で砂場遊びの時間、一人の子供が城の型を砂場に置き、土を入れ始めた。その様子を見て周りの子どもたちが集まり、「今は手で固めるタイムね」「もうちょっと土入れて～」など声を掛け合い、土を入れる係と手や道具で押し固める係に自分から分かれて協力して大きな型に土を入れていた。今までの砂場遊びの経験から水を入れたほうが良いと気づき、水を入れる子供もいた。２０分程かけて土を入れたが、型を抜くと崩れてしまった。抜こうして崩れることが分かった瞬間に上げるのをやめてまた土にバケツを埋めこもうとしていた。やっていくうちに、水が多い方が崩れにくいのではないかと気づいて教師や友達に話す子供もいたが、片付けの時間になり、成功しなかった。

二回目の学級で砂場遊びの時間、前回どうしたら崩れにくいと分かったのか思い出せるように教師が声をかけ、全員で考えてから城作りを始めた。一度目は失敗してしまい、教師がどうしたらいいか子供たちに問いかけた。「水を入れ過ぎだったから減らそう」「下の方からしっかりと押して固めていこう」などと考えが出て、二度目の挑戦を始めた。二度目は慎重に強めに固めながら土を入れた。やっていくうちに土に水を含ませて泥団子のように塊にしてから型に入れる方法を見つけ出し、作った土を「使っていいよ」と友達や教師に渡して、土作りに徹する子どももいた。二度目はきれいに型抜きすることができた。上に小さい型を重ねて二段にし、城が完成し周りにいる子供たちみんなで喜んだ。へらなどで城に模様を付けたり城の周りに道を作ったり丸い型で飾りを付けたりして、城の街づくりを楽しんだ。

４．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

3歳児：

・年少児の子供たちにとっては、自分たちができるかできないかということよりも、年中・年長児の遊んでいる姿など目で見たことがやってみたいという意欲に繋がることが多いと感じた。異年齢の存在は環境としてとても意味があるため、異年齢同士がかかわって遊ぶことのできる時間の確保が子供たちの遊びの興味を広げることにもつながっていくと考えられる。

・年少児にとって他学年の助言は、子供たちがしたいことを実現させるためには必要なことであるが、これまでの経験の差から、同じようにうまくできないところもあるのが実態として見られた。しかし、教師がすぐに助けるのではなく、遊びながらどうしたらよいかを一緒に考えたり、時に見守ったり、どこでどのような援助をするかを見極めることも子供たちが経験を積んでいくためには大切だと感じた。

・型抜きや山作り、水路づくりでどの遊びにおいても日々繰り返し遊んでいる子供は、経験が少ない子供よりも、どうしたらきれいな形ができるか、崩れない山になるか、水が流れるかのコツをつかんで、少しずつできるようになることが増えていく姿が見られた。

5歳児：

・これまでの幼稚園での遊びの中で砂場遊びを楽しんでいた経験から、一斉活動でも水を入れたり土を押し固めたり自分の知っていることを生かして城作りを楽しめた。

・新しい型や水路セットを購入したことで興味が広がり、自分から砂場遊びを楽しんでいなかった子どもも積極的に砂場遊びを楽しむことができた。

・学級全体で少し難しいことに取り組む中で、友達と関わり城を作るという共通の目的に向かって協力したり、考えて工夫する機会ができた。

・興味をもって主体的に取り組んだからこそ、型に土を入れる様々な方法を考えて、成功させるにはもっとこうしたらよいのではないかと考えたり提案をすることも楽しんでいた。